

滝高フロンティアサイエンス通信

滝川高校SSH通信 (2019年2月12日) SSH・理数科 第6号

インドネシア高校生を受け入れて交流活動を行いました

1 はじめに

2月8日(金)にインドネシアの高校生12名を本校で受け入れて交流活動を行いました。これはJICE(一般財団法人日本国際協力センター)が主催するJENESYS2018 ASEAN 招へい事業の一環で、アジアの高校生との交流活動を通じて、生徒の国際性の育成及び語学力の向上を目指すことを目的としています。内容はホームステイ受け入れ、書道体験、英語授業でのコミュニケーション活動を中心に行われました。

2 書道体験

1時間目は本校書道教諭の指導のもと、インドネシア高校生と先生達が書道を体験しました。筆の持ち方や墨の付け方から始まり、「山」「笑」の2文字を練習しました。すべての生徒・先生が初めての体験で、漢字特有の「はね」や「とめ」に悪戦苦闘しながらも楽しそうにチャレンジしていました。最後に、色紙に「笑」という文字を1人ひとりが清書しました。文字の入った色紙に各自の名前を入れて完成しました。この色紙は故郷で生徒たちの帰りを待つ家族や友人達への素晴らしいお土産となりました。



3 英語授業での交流活動

2時間目は2グループに分かれて、1年A組、1年F組の英語授業に参加して交流活動を行いました。1年A組では8つのグループにインドネシア高校生が1人ずつ加わり自己紹介から始まりました。英語の会話力は日本の生徒と同じくらいで、思っていることを正確に伝える難しさを感じていましたが、身振り手振りや写真を見せ合ったりして何とかコミュニケーションをとっていました。その次にはインドネシアについてのクイズを行い、日本との国土面積や人口の比較、食文化や言語について学びました。そのあとは、日本の代表生徒による、滝川市や滝川高校の紹介プレゼンテーション、インドネシア生徒によるインドネシア紹介プレゼンテーションと続きました。最後にグループごとに日本の有名な名所、イベント、食べ物などを英語で説明して終わりました。授業が終わった後も一緒に写真を撮ったりして、生徒達の笑顔があふれるすてきな交流となりました。



*参加生徒の感想から

今回の交流は私にとってとても貴重な経験になりました。また自分のコミュニケーション力が全然足りないことがわかったので、こういった活動に積極的に取り組むべきだと思いました。交流したインドネシアの生徒はとても優しくかったです。趣味を聞いたり写真を一緒に撮ったりして楽しい時間を過ごすことができました。こういった交流をすることで、英会話の上達はもちろん、人前で自分の意見を発表することへの抵抗感が減ると思いました。将来のために英語は重要になってくると思うので、今のうちからしっかりと勉強して、日々の生活で活用していきたいと思います。

4 ホームステイ

2月8日(金)の夕方から10日(日)の昼までの2泊3日で2名ずつに分かれ、滝川市内の家庭でホームステイを体験しました。本校からは2名の生徒がホストファミリーを引き受けインドネシア生徒と一緒に過ごしました。9日の土曜日には朝からホストファミリーと自由行動です。生まれて初めて見た雪に感動し、雪の滑り台やスノーラフティング、氷上ワカサギ釣りを体験しました。

また日本の「おいしいもの」を食べたり、お土産を探したりして楽しい時を過ごしました。言葉は完全に通じなくても心は通じたようで、一生の思い出を作ることができたようです。

